

令和5年度 学校関係者評価書(様式)

鈴鹿市立牧田小学校		NO. 1	
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	①令和4年度に実施した、学力調査の分析結果から得られた本校の学力の弱みに対する対策を実施していくとともに、令和5年度に実施される学力調査の結果の分析を行い、学力の弱みなどの改善策についての検証を行っていく。 ②算数科において、4年生及び5年生で習熟度別の授業、3年生で少人数授業に取り組むことで、個に応じたきめ細かな授業実践に取り組み、基礎的な学力の定着を図るとともに、発展的な学力の形成にも行っていく。 ③令和5年度も鈴鹿市教育委員会の教職経験5年以下研修の積極的な活用を図り、授業力の向上を図る。 ④教員の授業力向上と児童の学力向上を目指し、鈴鹿市教育委員会の指導主事を招聘し、令和5年度より2年間に渡って算数科を中心とした集中的な授業研究と校内研修を実施する。 ⑤ステップ学習の見直しなど基礎学力定着を図るとともに、リニューアルされる「読む」「書く」シートの活用を充実させる。また、読書活動の活性化を図り読解力と記述力の向上を図る。 (成果と課題) ・児童アンケート:「学校の勉強がよくわかる」→肯定的回答が微増(83%→84%→88%→87%→88%) ・児童アンケート:「学習したことをきちんとノートにまとめている」→肯定的回答の微増(88%→88%→92%→87%→89%) ・児童アンケート:「授業中、自分の考えを伝えようとしている」→肯定的回答が5年連続で増加し過去最高(74%→70%→73%→78%→79%) ・令和5年度の学力調査の結果は、国語-5.2%、算数-4.5%だったが、国語で+3.4%、算数+1.7%全国の平均正答率に近づいた。内容を理解している児童の層も、国語で+12%、算数で+25%と大幅増加している。児童アンケートも含め、学力関連のデータが全体的に改善されてきた。しかし、依然として国の平均に対して差があり、今後も授業改善などに引き続き取り組む必要がある。 ・学力に関連するデータのほとんどが改善を示し、取組の成果が伺えるが、保護者への情報共有や啓発が不足している為か、保護者の認識と実態にズレがある。次年度以降は、情報共有や学力向上に関する啓発にも力を入れていきたい。	○学力向上が見られるので、R5年の活動内容の継続を願う。 ○習熟度別授業は、子どもからも好評で継続して頂きたい。 ○教職経験5年以下研修は、教員の負担を軽減しながら、授業力の向上を図るのに良いと思う。 ○読書活動の改善で、昨年比+7%と効果が出た。80%台を目指したい。 ○教職員の意識改革の取組が功を奏したのか、全国学力調査の結果からみると、全国平均には届かないものの、本校の数値としてはずいぶん上がってきている。これは個々の教員の意識の持ち方や、そこに取り組んできた学校側の努力の結果だと思う。大いに評価して良いと思う。 ◇保護者・地域と連携し読書活動の活性化を図ってはどうか。 (案)・親子読書の取組 ・市立図書館等の活用 ・市民センター・牧田コミュニティセンター等の読書コーナーの設置及び開放 ◇アンケートでは「家庭での子どもとの会話」⇒肯定的回答が保護者96.6%、子ども89%となっている。7%余りの差が出ていることに注目したい。この差はどこから出るのか。親子の会話が学習面や生活面の向上に大切と考える。 ◇世間でもペーパー離れが進んでいる中で、本から得られる知識も多いため、諦めずに努力をしてもらいたい。 ◇中学・高校へと進むために家庭での学習がいかに大切かを小学校の頃から子にも保護者にも伝える努力をしてほしい。このまま高水準で保っていただきたい。 ●平仮名や片仮名、漢字が苦手な子が少数いる。家庭でも振り仮名をふるなどしてもらえたらもう少し読める様になると思う。	①令和5年度に実施した、学力調査の分析結果から得られた本校の学力の弱みに対する対策を実施していくとともに、令和6年度に実施される学力調査の結果の分析を行い、学力の弱みなどの改善策についての検証を行っていく。 ②算数科において、高学年で習熟度別の授業、3年生で少人数授業に取り組むことで、引き続き個に応じたきめ細かな授業実践に取り組み、基礎的な学力の定着を図るとともに、発展的な学力の形成を目指していく。 ③令和6年度も鈴鹿市教育委員会の教職経験5年以下研修の積極的な活用を図り、授業力の向上を図っていく。 ④教員の授業力向上と児童の学力向上を目指し、鈴鹿市教育委員会の指導主事を招聘した研修体制2年目として、その集大成として市内に算数科を中心とした授業研究を発表・公開する。 ⑤「読む」「書く」シートの活用を引き続き充実させるとともに、読書活動の活性化を図り 読解力と記述力の向上を図る。
	①一人一台端末の持ち帰りが一般的な状況で、端末を利用した新しい学習システムを活用して学力向上を図る。 ②児童アンケートの中で、特に「家で宿題などの勉強を毎日している」の項目に注目し、数値目標を90%。 (成果と課題) ・児童アンケート:「家で宿題などの勉強を毎日している」→肯定的回答が微増(90%→93%→92%→89%→90%)・・・上記目標達成 ・一人一台端末の持ち帰りについて、特に低学年での実施に課題が残った。	◇端末やスマートフォン等(ICT機器)の活用が増えた背景から、「読む」が向上したが、「書く」が苦手な児童が増えた傾向が有るので、次年度はこの対応を検討してほしい。 ◇一人一台端末については、学力向上と同時に休息時間のとり方など、端末との付き合い方を学習させてほしい。	①一人一台端末を利用した新しい学習システムを活用して、より児童が主体的に学べる方法に取組み、学力向上を図る。 ②一人一台端末を活用し、児童アンケートの中で、特に「家で宿題などの勉強を毎日している」の項目に注目し、数値目標を92%とする。
長欠減少	①R4年度より設置した「ほっとルーム」(校内教育支援センター)の充実を図ることによって不登校児童への支援をより一層図るとともに、特別支援コーディネーター、SLS、養護教諭との連携を図りながら、欠席を長期化させない早期対応を図る。 →30日以上欠席(不登校の定義)児童数を前年度比80%に抑える。 ②児童アンケートの中で、特に「早寝早起き」の項目に注目し、数値目標を80%とする。 (成果と課題) ・校内教育支援センター(ほっとルーム)が開設2年目となり、特別支援コーディネーターが専任となったこともあり、不登校傾向の欠席日数を大幅に改善した。現在の利用児童数は8名程度で、個別の欠席日数は、軒並み1/2～1/3以上少なくなり、感覚的にほぼ登校できている状態となっている。 ・児童アンケート「早寝早起きをしている」→肯定的回答が一度低下したが、昨年度より増加し持ち直した。 (82%→75%→75%→74%→78%) ・児童アンケート「学校や社会のきまりを守っている」→肯定的回答が高い数値で推移(94%→93%→96%→95%→94%) ・校内の生活指導事案の総数は減少しているが、相変わらず児童間の暴力行為の割合は多い。	○中学校と連携して不登校の子どもたちへの支援をしていただいていることに、保護者として安心している。 ○不登校・長欠については、「ほっとルーム」を開設したり、PTAと連携したりして不登校に取り組む、効果が出ている。 ◇普段あまり学校に関われないので「ほっとルーム」がどう動いているのか伝わってこない。 ◇不登校児童が全国的に増えているが牧田小はどうか。他校では市内のフリースクールと連携しているが牧田小はどうか。 ○早寝早起きのアンケート結果で保護者が高く児童が低い傾向が見られる。児童が「お休み」と言って部屋に入っても起きている可能性は大きいので、30分後に保護者が部屋を覗くなど必要。 ◇生徒指導に関して暴力行為の割合が多いのは気になる。	①R4年度より設置した「ホットルーム」(校内教育支援センター)3年目として、個に応じた不登校児童への支援を一層図るなど更なる取組の充実を目指す。また、特別支援コーディネーター、SLS、養護教諭との連携を図りながら、欠席を長期化させない早期対応も同時に図っていく。 →30日以上欠席(不登校の定義)児童数を前年度の80%に抑える。 ②児童アンケートの中で、特に「早寝早起き」の項目に注目し、数値目標を80%とする。
	①「すいみんの日」を、市内全域で中学校区の連携を活用して取り組まれている「ノーメディアデー」の取組にリニューアルすることで、全国的なテーマとなっているスクリーンタイムの抑制を図るとともに、「すいみんの日」の取組意図の継続を図る。 ②PTAと協議し、家庭教育学級等で、不登校支援の考え方や、SNS、Youtubeの使い方等について、保護者、児童向けに研修会をもつ。→PTAと家庭教育学級について協議し、保護者、児童向けに研修会をもつ。 (成果と課題) ・いじめ防止の授業やSNSトラブル防止の授業を各学期に各学年で実施し、2学期のSNSトラブルを0に抑えるなど実績をあげている。しかし、保護者はこうした取組を十分認識しておらず、子どもからの情報に不安を募らせている。	◇現代の子どもたちは、メディアとは切っても切れない環境にいる。ノーメディアデーをきっかけに、メディアを禁止するだけでなく、どうしたらうまく付き合えるかを子どもが考える様に取り組んでほしい。また、保護者にも意識改革を行ってほしい。学校からもっと保護者に発信してほしい。 OPTAと連携して開催したSNSやYoutubeの使い方等についての保護者向け研修会は、良かったと声をいただいている。 ◇保護者が学校にもっと関わられるように、学習ボランティア等で我が子のクラスにも入れるように変えてほしい。そうすれば保護者や地域の方ともっと距離が縮まり、ボランティアが増え、教員の負担も減るのではないかと。 ◇学校でのいじめ防止や仲間づくりの取り組みが、保護者に伝わる対策を講じる。	①中学校区で連携して取り組んでいる「ノーメディアデー」をより一層充実させることで、スクリーンタイムの抑制を図るとともに、「すいみんの日」の取組意図の継続を図る。 ②令和6年度も学校運営協議会の場で、学校の様子を知っていただくために、学期に1回程度の授業参観を実施する。 ③学期に1回実施する授業参観を利用して、昨年に引き続き、スマートフォンやゲーム機などの家庭用端末によるSNS等のトラブルやその使い方について、保護者向けに研修会や勉強会をもつ。 ④学校におけるいじめ防止の授業や、SNSトラブル防止の授業などの取組を、通信や学校ホームページ等を活用してより積極的に保護者や地域に伝えていく。
人権教育	①牧田万博の取組など国際理解教育の推進を継続するとともに、地域の偉人「前川定五郎翁」の学習を含めた人権学習を進めていく。 ②国際理解教育、多文化共生教育を進め、児童アンケートの中で、特に「文化の違う外国の人たちと分かり合う大切さの勉強」の項目に注目し、数値目標を90%とする。 ③教職員に対する人権教育研修の充実を図るとともに、校内の人権教育カリキュラムに沿った学習を進め、児童アンケート:「自分や友だちを大切にし、いじめや差別をなくそうとしている」の項目の肯定的な回答を95%以上を目指す。 (成果と課題) ・児童アンケート:「学校で文化の異なる国の人たちを理解する取組を行っている」→肯定的な数値が高く推移。(92%→85%→89%→89%→90%) ・児童アンケート:「自分や友だちを大切にし、いじめや差別をなくそうとしている」→極めて高い数値を維持。(94%→91%→96%→94%→94%) ・いじめ防止の授業や仲間づくり、人権学習や道徳の学習など各学年で実施しているが、やはり保護者はあまり認識しておらず、子どもからの情報に不安を募らせている。	○牧田万博は異文化を知るうえで非常に役立っている。今後も継続してほしい。 ○飯野高校の生徒と交流する機会を多く持っているおかげで、出前講座を楽しみにしている子どもたちが増えたと感じた。 ○本校は外国とのルーツを持つ外国籍の児童が多い。多文化共生を学ぶには恵まれた環境なので引き続き学校をあげて多文化共生の人権学習を続けていってほしい。 ◇人権について保護者の意識を変えるのは難しいと思うが、何らかの取組を考えなければならないと思う。 ◇いじめへの取組をどう行っているか、もっと保護者に伝わるように通信や学校だよりにも載せてもらいたい。	①地域の偉人「前川定五郎翁」の学習を軸に、地域の方々と協働した人権学習と地域学習を進めていく。 ②国際理解教育、多文化共生教育を進め、児童アンケートの中で、特に「文化の違う外国の人たちと分かり合う大切さの勉強」の項目に注目し、数値目標を90%以上を目指す。 ③教職員に対する人権教育研修の充実を図るとともに、校内の人権教育カリキュラムに沿った学習を進め、児童アンケート:「自分や友だちを大切にし、いじめや差別をなくそうとしている」の項目の肯定的な回答を95%以上を目指す。